

講義コード	1A003011
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2802
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

#### 目的

本講義時では、アスリートを取り巻くさまざまな環境のもとアスレティックトレーナーが知っておくべき諸問題の基礎をスポーツ現場の最新情報とともに学ぶ。生死に関わる現場に遭遇した場合、遠征や合宿にアスレティックトレーナーとして帯同する場合に必要な医学知識を学ぶことが目的であり、2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指す。またグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行なう。

#### 到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ現場で対応できる一次救命処置を実施できる。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 自己紹介・救急処置 (CRP/AED)①
2. 救急処置 (CRP/AED/RICE)②、アスリートの健康管理①
3. アスリートの健康管理 ②
4. アスリートの内科的障害と対策 ①
5. アスリートの内科的障害と対策 ②
6. アスリートの外傷・傷害と対策 ①
7. アスリートの外傷・傷害と対策 ② (課題の発表と検討1)
8. アスリートの外傷・傷害と対策 ③ (課題の発表と検討2)
9. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
10. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
11. スポーツによる精神障害と対策
12. 特殊環境下での対応
13. アンチドーピング
14. コンディショニングの手法① (ストレッチング、icing)
15. コンディショニングの手法② (テーピング、マッサージ)

#### 成績の評価

定期試験にて成績評価を行なう。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てくるので、事前に次回授業範囲に目を通しておくこと。

## 履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー共通科目・JATIトレーニング指導者一般科目に含まれているので、遅刻・欠席には十分に注意すること。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅰ-4スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ、共通Ⅲ-10スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ』の内容を含む。

## テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（日本体育協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

## オフィスアワー

月曜～木曜日

12:10～13:10、16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ること。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出ること。

## 研究室・授業用E-mail

研究・診療棟 4階 415研究室

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	1A004011
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2803
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

#### 目的

本講義時では、アスレティックトレーナーとして必要なスポーツと心の関係やスポーツに関わる訴訟・法律を学ぶ。アスリートが効果的な技術習得を行う時、最高のパフォーマンスを発揮する時、モチベーションを高める時など様々な場面でアスレティックトレーナーにも心理学的な知識が必要とされる。また近年スポーツに関わる訴訟が注目されている。ここでは過去の判例をあげ法律に触れることでアスレティックトレーナーとしてリスク管理の必要性を再認識することが目的である。2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指す。履修者はグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行なう。

#### 到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ指導者が知っておくべき法律理解。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス、スポーツと心
2. スポーツと心 ・スポーツにおける動機付け
3. コーチングの心理（技能の練習と指導）
4. コーチングの心理（プレーヤーの個人指導と心理的問題）
5. コーチングの心理（チームの指導と心理的問題）（コーチング評価）
6. メンタルマネジメントとは・リラクゼーション
7. イメージトレーニング
8. 集中力のトレーニング
9. 心理的コンディショニング
10. プレッシャー、あがり、スランプの克服
11. 指導者のメンタルマネジメント ①
12. 指導者のメンタルマネジメント ②
13. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①
14. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 ②
15. スポーツと人権・課題の発表と検討

#### 成績の評価

定期試験にて成績評価します。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てくるので、事前に次回授業範囲に目を通しておくこと。

#### 履修上の注意

本科目は、（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー共通科目・JATI認定トレーニング指導者一般科目に含まれているので、遅刻・欠席には十分に注意すること。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅱ-2 スポーツと法、共通Ⅱ-3 スポーツの心理Ⅰ、共通Ⅲ-6 スポーツの心理Ⅱ』の内容を含む。

#### テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本体育協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

#### オフィスアワー

月曜～木曜日

12:10～13:10、16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ること。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保するので申し出ること。

#### 研究室・授業用E-mail

研究・診療棟 4階 415研究室

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	1A010011
講義名	コミュニケーション学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

#### 目的

人間関係において基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、ロールプレイを通して実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。さらに、コミュニケーションについての一般的な知識のみでなく、カウンセリングの考え方や技法も取り入れることによって、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

#### 到達目標

1. 言語的・非言語的コミュニケーションについて正しく理解することができる。
2. 医療従事者・社会人としての基本的なコミュニケーションスキルについて理解し、実践できるようになる。
3. 学んだ知識と技術を日常生活の中で役立て、さらなるスキルアップができるよう努める。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. オリエンテーション：コミュニケーションについて
2. コミュニケーションの基本 (1)：印象
3. コミュニケーションの基本 (2)：ジョイニング
4. コミュニケーションの基本 (3)：聴き方
5. コミュニケーションの基本 (4)：訊き方・伝え方
6. アサーショントレーニング
7. コンプリメント
8. リフレーミング
9. 解決志向アプローチ
10. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (1)
11. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (2)
12. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (3)
13. 対象者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (1)
14. 対象者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (2)
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

#### 成績の評価

期末レポート70%・授業内小レポート30%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。講義・演習内容を日常生活の中で考え、実践すること。

### 履修上の注意

テーマに沿った内容のディスカッションとロールプレイを行なう。積極的に取り組み、相互作用の中から多くのことを学び、身につけること。

また、講義の最後に感想（質問を含む）など小レポートを書き、提出を求める。

### テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布する。

### 参考資料

「作業療法ケースブック コミュニケーションスキルの磨き方」（医歯薬出版）

「PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド 第2版」（医学書院）

「理学療法士・作業療法士のための治療心理学 患者によりそう行動アプローチ」（創元社）

「ナースのためのアサーション」（金子書房）平木典子（編）

講義コード	1A012011
講義名	スポーツコーチング論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	GE-1216
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

#### 目的

スポーツにおけるコーチングの基本を学ぶ。  
自身の将来を考え、指導者としての自己確立の重要性を学ぶ。

#### 到達目標

スポーツにおけるコーチングの重要性を理解する。  
自己確立の実施とその重要性を理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 自己開示について
2. コーチングとは？
3. 自己確立について
4. 自主性・自発性について
5. プレーヤーの在り方
6. 指導者の在り方
7. コーチングの基本
8. コーチングのスキル
9. ミーティングについて
10. モチベーションについて
11. リーダーシップについて
12. チームビルディングについて
13. 自己とコーチングの関連性
14. 自己確立の実施
15. まとめ

#### 成績の評価

授業内レポート (10%)  
期末レポート (90%)

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。  
聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。

#### 履修上の注意

本科目は、(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナーの対応科目である。

#### テキスト

「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（日本体育協会）

参考資料

「スポーツコーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで」（西村書店）

オフィスアワー

木曜日 12：30～14：00

金曜日 13：00～15：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 3階教員室

teraoka@kansai.ac.jp



講義コード	1A014011
講義名	スポーツと健康
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

#### 目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

#### 到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。  
有酸素運動についての正しい知識を身につける。  
スポーツによるけがと予防法を知る。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスプロモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明
6. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力
7. 有酸素運動と無酸素運動、エネルギー供給機構
8. 酸素摂取量、呼吸商、最大酸素摂取量、運動強度、心拍数、呼吸数
9. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）、健康づくりとウォーキング
10. 運動強度について、使用する筋、下肢への衝撃
11. 有酸素運動に適した運動②（ジョギング）
12. 有酸素運動に適した運動③（エアロビックダンス）
13. 有酸素運動に適した運動④（水泳・水中運動）
14. 肥満と減量、スポーツ活動に多いケガや病気(内科)
15. スポーツ活動に多いケガや病気(外科)

#### 成績の評価

試験（100％）にて評価。なお必要に応じてレポート提出などを行い、総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

## 履修上の注意

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生および、  
(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。  
・遅刻・早退は1回を $\frac{1}{3}$ 欠席として計算する。

## 参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」  
(健康・体力づくり事業財団)  
「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」  
(日本体育施設協会)

## オフィスアワー

木曜日の12:30~13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室・igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1A023011
講義名	スポーツ社会学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2804
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

#### 目的

スポーツ社会への関わり方を考える基礎作りをする。

#### 到達目標

様々なスポーツシーンから、今後のスポーツへの関わり方を考えられるようにする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. スポーツの概要と歴史、文化としてのスポーツ
2. スポーツタレント発掘事業
3. 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
4. 総合型地域スポーツクラブの必要性
5. 地域における「スポーツ少年団」
6. 社会の中のスポーツ（スポーツプロモーション）
7. 日本スポーツ振興センター、ナショナルトレーニングセンター
8. JOC事業、国立スポーツ科学センター
9. 総合型地域スポーツクラブの運営
10. スポーツ組織の運営と事業
11. スポーツ財団
12. スポーツ指導者としてのあり方を考える
13. 我が国のスポーツ振興施策
14. 広域スポーツセンターの機能と役割
15. まとめ

#### 成績の評価

各授業（映像や講義内容）後のレポート内容により評価する。レポートには、その日に行われた授業内容や感想を記載すること。

#### 履修上の注意

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は当科目を履修しなければならない。

#### テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ」（日本体育協会）

#### オフィスアワー

12:30 13:00

月～木曜日      ~

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719      E-mail : nakao@kansai.ac.jp

講義コード	1A027021
講義名	トレーナー見学実習
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2618
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

増田 研一・中尾 哲也・吉田 隆紀・山口 由美子・寺岡 祐助

#### 目的

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーに必要な技術・能力習得を目的とする見学実習を行う。

#### 到達目標

スポーツ現場における基本的な知識・技術などを身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. アスレティックトレーナー（AT）と倫理
2. 競技スポーツにおけるATの役割①
3. 競技スポーツにおけるATの役割②
4. 競技スポーツにおけるATの役割③
5. 競技スポーツにおけるATの役割④
6. 競技スポーツにおけるATの役割⑤
7. 競技スポーツにおけるATの役割⑥
8. 競技スポーツにおけるATの役割⑦
9. 各競技におけるATの役割⑧
10. 競技スポーツにおけるATの役割⑨
11. 競技スポーツにおけるATの役割⑩
12. 競技スポーツにおけるATの役割⑪
13. 競技スポーツにおけるATの役割⑫
14. 競技スポーツにおけるATの役割⑬
15. 競技スポーツにおけるATの役割⑭
16. 競技スポーツにおけるATの役割⑮
17. 組織の運営と管理①
18. 組織の運営と管理②
19. 組織の運営と管理③
20. 他スタッフとの連携①
21. 他スタッフとの連携②
22. 他スタッフとの連携③
23. 職業としてのアスレティックトレーナー①
24. 職業としてのアスレティックトレーナー②
- 25.

職業としてのアスレティックトレーナー③

26. 見学実習発表会①
27. 見学実習発表会②
28. 見学実習発表会③
29. 次年度へ向けたグループワーク①
30. 次年度へ向けたグループワーク②

成績の評価

毎回作成するデイリーレポートや授業態度および自己評価などを総合的に評価する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。毎回作成するデイリーレポートを中心に課題や問題点およびそれらの解決方法を継続的に学修する。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目である。

テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨」（日本体育協会）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）

月～金曜日 12:00-13:00（中尾）

月～木曜日 12:10-13:10、16:20-17:00（山口）※あらかじめアポを取ること。

水・金曜日 12:10-13:10（寺岡）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

診療・研究棟4階412研究室、nakao@kansai.ac.jp（中尾）

診療・研究棟3階305研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp（吉田）

診療・研究棟4階415研究室、yumiko@kansai.ac.jp（山口）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	1A047011
講義名	医学概論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-3101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

#### 目的

本講義では、まず、医療の対象となる人間存在、および生命の本質について理解を深めることを基本的な目的とする。その理解を踏まえた上で、さまざまな時代、地域において、病気の本質や原因がどのようなものとして捉えられてきたか、また病気にどう対応してきたかを概観する。

#### 到達目標

現代医療の長所と短所を受講者自身が考察できるような視点を育成すること、および、病気の本質を聴き取る知恵（洞察力・判断力）と共感能力を身につけること。

#### 授業計画表

##### 授業計画

1. I 生命科学が描いている人間の姿 (生命の起源)
2. I 生命科学が描いている人間の姿 (生命の進化)
3. II 人間存在の本質 (人間の独自性)
4. II 人間存在の本質 (心と身体の関係)
5. III 古代～中世の医学 (古代の医学)
6. III 古代～中世の医学 (中世&ルネサンス医学)
7. IV 近世～現代の医学 (17世紀の医学)
8. IV 近世～現代の医学 (18～20世紀の医学)
9. V 東洋医学 (インドの医学)
10. V 東洋医学 (中国の医学)
11. V 東洋医学 (日本の医学)
12. V 東洋医学 (あはきの歴史の変遷)
13. VI 現代の医療問題
14. VII イメージリー療法・プラシーボ効果・528Hz
15. VIII 医療におけるコミュニケーションの在り方

#### 成績の評価

定期試験（70%）および口頭発表や質疑応答における主体性や集中度（30%）

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180時間）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

特定しない。

#### 参考資料

「医療概論」(医歯薬出版)  
「人はなぜ治るのか」(日本教文社)

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp



講義コード	1A061011
講義名	運動生理学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-3001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 照屋 博康	指定なし

#### 目的

運動生理学の基礎になる学問は生理学である。この学問は「運動すると身体がどの様に反応するのか。」また「なぜそのような反応をするのか。」を学ぶ学問でもある。安全で有効な運動指導をするにあたって、これらの反応を考え理解する事が大切である。従って、本講義では運動による身体に及ぼす影響を理解する事を目的とする。

#### 到達目標

運動することによる生理機能に及ぼす影響を理解し、健康維持増進や競技力向上に対する運動指導の関わり方を考えられるようにする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 加齢による体力の変化 ～先天的要因と後天的要因から～
2. 神経と筋肉の基礎
3. 運動と反射① ～ストレッチ効果～
4. 運動と反射② ～パフォーマンス効果～
5. 運動と筋力調節とトレーニング効果および運動学習
6. 運動と筋損傷と筋修復
7. 運動とエネルギー供給系① ～運動強度と乳酸～
8. 運動とエネルギー供給系② ～筋疲労の基礎～
9. 運動とエネルギー供給系③ ～筋疲労の応用～
10. 運動強度と呼吸の変化 ～AT・LT・VT～
11. 運動と呼吸・循環① ～体温調節～
12. 運動と呼吸・循環② ～酸素借と酸素負債とEPOC～
13. 運動と内分泌系の基礎 ～運動強度と分泌動態～
14. 運動と内分泌系の応用 ～運動に伴う身体への影響に着目して～
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験(90%)と小テスト(10%)の総合評価(100%)により評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180時間)の予習と復習を行なうこと。授業で学んだことの理解を深める為、運動中に生じる様々な生体反応に興味を持つこと。

#### 履修上の注意

私語は厳禁とし、授業参加に励むこと(授業妨害と感じた場合は退出を命じることもあるので十

分に注意すること)。

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」、「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者 (JATI)」を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

#### テキスト

「入門運動生理学 第4版」 (杏林書院)

#### 参考資料

「生理学テキスト」 (文光堂)

「運動生理学20講」 (朝日書店)

「身体トレーニング 運動生理学からみた身体機能の維持・向上」 (真興交易(株)医学出版部)

#### オフィスアワー

後期水曜日 8:30~8:50

#### 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	1A065011
講義名	英語表現法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

#### 目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

#### 到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を身につける。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 Doraemon to hit U.S. television this summer
3. Unit 2 Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners
4. Unit 3 Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans
5. Unit 4 German fans bring own sofas to watch World Cup
6. Unit 5 Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover
7. Unit 6 Japanese Brazilian teacher a student favorite
8. Unit 7 Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas
9. Unit 8 Tokyo 'English Village' to offer language immersion
10. Unit 9 Farmer's efforts bearing fruit in Bhutan
11. Unit10 Simulation of texting at Shibuya crossing goes viral
12. Unit11 From Swat Valley to Nobel Peace Prize, Pakistani girl moved mountains
13. Unit12 Sign language is 'cool'
14. Unit13 App makers snap up 1st wave of Pepper robots
15. Unit14 Learn truth behind ivory, wood: African activist

#### 成績の評価

- ①定期考査50%、復習テスト30%、提出物20%で評価する。
- ②語学は継続して学習することが大切であり、出席を重視する。

#### 自己学習

- ①予習・復習の時間は毎回少なくとも45分を確保すること。
- ②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。また、わからない語句は辞書で調べておくこと。

#### テキスト

「News Matters Understanding English Newspapers<New Edition>」 (南雲堂)

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:10～12:40

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	1A066011
講義名	英語表現法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

#### 目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

#### 到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を身につける。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 人工知能、日常の判断に「客観的」助言を提供
3. Unit 2 フィンランド、失業者に月587ドルの基礎所得支給へ
4. Unit 3 料理人、和食給食の普及を援助
5. Unit 4 オックスファム：8人の富、世界の半数に匹敵
6. Unit 5 東京の神社、電子マネーの賽銭を受け入れ
7. Unit 6 読書用メガネ、過去のものになる可能性
8. Unit 7 日本、2020年五輪へ向け、農家の「食の安全」認証取得支援へ
9. Unit 8 乳児の脳の画像で自閉症のリスク診断が可能に
10. Unit 9 相乗りタクシーアプリ、実証実験へ
11. Unit10 故郷の味、東京で大きなビジネスに
12. Unit11 地球と同じ大きさの惑星、7つ発見
13. Unit12 古代の人類の祖先、背筋を伸ばして立っていた
14. Unit13 ロボット、より高度な「感情」を獲得中
15. Unit14 ペンギンの祖先、ティラノサウルスに出会っていた可能性

#### 成績の評価

- ①定期考査50%、復習テスト30%、提出物20%で評価する。
- ②語学は継続して学習することが大切であり、出席を重視する。

#### 自己学習

- ①予習・復習の時間は毎回少なくとも45分を確保すること。
- ②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。また、わからない語句は辞書で調べておくこと。

#### テキスト

「Meet the World English through Newspapers 2018」 (成美堂)

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:10～12:40

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	1A119701
講義名	人体の構造実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

#### 目的

本科目は人体を構成する各器官系の形態と構造について系統解剖学の立場から学ぶことを目的とする。また、この科目は実習科目ですが、学習効果を高めるために前期に並行して開講される講義科目「人体の構造Ⅰ」の内容と相互に連携しながら、連続的に進行するように授業計画が立てられている。

#### 到達目標

受講生が人体の成り立ちや各器官系の形態や構造について解剖学に基づいて体系的に考察することができる力を身につけることを目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 医の倫理・骨系（総論）
2. 骨系（脊柱の骨）
3. 骨系（上肢の骨）
4. 骨系（上肢の骨）
5. 骨系（下肢の骨）
6. 骨系（下肢の骨）
7. 骨系（頭蓋の骨）
8. 筋系（総論）
9. 筋系（体幹の筋）
10. 筋系（上肢の筋）
11. 筋系（上肢の筋）
12. 筋系（下肢の筋）
13. 筋系（下肢の筋）
14. 筋系（頭頸部の筋）
15. 筋系（頭頸部の筋）

#### 成績の評価

実習時間中の課題評価(80%)、実習への取り組み度(20%)で総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

毎回の授業の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に予習（授業範囲の教科書ページの通読）と復習（講義ノートや配付プリントを利用した授業内容の反復）を行う習慣をつけること。

#### テキスト

「解剖学」東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付する。

参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

オフィスアワー

火曜日 9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp



講義コード	1A139011
講義名	国語表現法
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

### 目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。  
 文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。  
 よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

### 到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。  
 さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。  
 このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. I. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. I. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. I. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. I. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. I. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. I. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. I. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. II. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. II. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. II. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. II. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. III. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. III. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. III. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

### 成績の評価

50

40

10

レポート提出 %・レポート内容 %・授業への取り組み度 % (授業中の小レポートにより評価) (詳細については、授業時に伝える)

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

### 履修上の注意

課題のレポートは、求める条件を満たして、必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

### テキスト

毎回、授業時にプリントを配布する。

### 参考資料

- 「日本語練習帳」 (岩波新書)
- 「日本語はおもしろい」 (岩波新書)
- 「私家版 日本語文法」 (新潮文庫)
- 「日本語はなぜ変化するか」 (笠間書院)
- 「全国アホ・バカ分布考」 (新潮文庫)

### オフィスアワー

火曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	1A177011
講義名	心理学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

#### 目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

#### 到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
- II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
- III 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
- IV 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
- V 感情の心理学 (感情論の略史)
- VI 感情の心理学 (感情の科学)
- VII 感情の心理学 (情動と身体反応)
- VIII 痛みの心理学
- IX 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的变化)
- X 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
- XI 遺伝と環境 (学習と記憶)
- XII 遺伝と環境 (本能の役割)
- XIII コミュニケーション論 (親子の心理学)
- XIV コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
- XV 古人(いにしえびと)の人間観と528Hz

#### 成績の評価

定期試験(70%) および質疑応答における主体性や集中度(30%)

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180時間)の予習と復習を行うこと。  
普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。

#### 履修上の注意

本科目は、健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者の対応科目である。  
自分自身で感じとって考える、という過程の大切さを認識しながら受講すること。

#### テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	1A187021
講義名	人体の機能Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2005
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 耕太	指定なし

#### 目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域である。はり師きゅう師においてもその重要性にかわりはない。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅰ」では、神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能について学修する。

#### 到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを目標にする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 生理学一般
2. 神経 (神経の一般的性質、変性と再生)
3. 神経 (静止膜電位、活動電位)
4. 神経 (興奮の伝導と伝達)
5. 神経 (末梢神経系)
6. 神経 (中枢神経系)
7. 神経 (自律神経系)
8. 筋 (筋収縮の仕組みとその分類)
9. 筋 (骨格筋、心筋、平滑筋)
10. 筋 (筋のエネルギー代謝)
11. 運動 (骨格筋に神経支配)
12. 運動 (下行路、運動の調節)
13. 感覚 (感覚の仕組みと一般的性質)
14. 感覚 (皮膚感覚と内臓感覚)
15. 感覚 (特殊感覚)

#### 成績の評価

定期試験の成績に基づいて評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ (90分) の予習と復習を行うこと。

事前にテキストをよく読んで、疑問に思うことやわからないことをあらかじめ洗い出しておくことが重要である。

## 履修上の注意

1年生のうちに専門科目の基礎となる生理学の知識を十分に身につけること。座席指定で出席を確認する。

## テキスト

「生理学 第3版」 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)

## 参考資料

適宜、講義中に紹介する。

## オフィスアワー

## 講義開始前後

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	1A188021
講義名	人体の機能Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2006
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田村 弘	指定なし

#### 目的

生理学は、生命の仕組みを明らかにする学問である。生理学を学ぶことで、人体を対象とする鍼灸やスポーツトレーナー活動における、基礎となる科学的な知識を得ることが可能となる。生理学が対象とする学問領域は、大きく、動物性機能と植物性機能の2領域に分けることができる。前者は「人体の機能Ⅰ」で、後者は「人体の機能Ⅱ」で学修する。

#### 到達目標

生理学における植物性機能の仕組みを学修し、理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 血液（血液の組成、血球の働き）
2. 血液（血液凝固、血液型）
3. 循環（循環中枢、心臓の働き）
4. 循環（循環の調節、血圧）
5. 呼吸（呼吸運動とその調節）
6. 呼吸（ガス交換とガス運搬）
7. 消化と吸収（消化器系と消化酵素）
8. 消化と吸収（消化管ホルモン、肝臓の働き）
9. 栄養と代謝（三大栄養素、同化と異化）
10. 体温（産熱、発熱、体温調節の仕組み）
11. 排泄（尿の生成）
12. 排泄（体液の調節、排尿と蓄尿）
13. 内分泌（ホルモンの性質）
14. 内分泌（内分泌腺の働き）
15. 生殖・成長と老化（生殖器機能、性ホルモン）

#### 成績の評価

定期試験により評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）の予習と復習が必要である。

あらかじめテキストと配布されたプリントを十分に読み込んで予習し、理解できない個所を抽出して、受講すること。

#### 履修上の注意

「人体の機能Ⅱ」は「人体の機能Ⅰ」とともに、臨床医学やスポーツ医学の礎となる科目であ

る。  
真摯な態度で受講することを望む。

#### テキスト

『生理学 第3版』東洋療法学校協会編  
(医歯薬出版)

#### 参考資料

適宜、講義中に紹介する。

#### オフィスアワー

木曜日 昼休み (12:10~13:10)

#### 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室  
tamuraphysiology@gmail.com



講義コード	1A194021
講義名	人体の構造 I
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

#### 目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義する。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とする。

#### 到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指す。また講義後も自立学習が出来ることを目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 受講ガイダンス
2. 人体の構成
3. 骨系 (脊柱の骨)
4. 骨系 (脊柱の骨)
5. 骨系 (脊柱の骨)
6. 骨系 (胸郭の骨)
7. 骨系 (上肢の骨)
8. 骨系 (上肢の骨)
9. 骨系 (上肢の骨)
10. 骨系 (上肢の骨)
11. 骨系 (上肢の骨)
12. 骨系 (下肢の骨)
13. 骨系 (下肢の骨)
14. 骨系 (下肢の骨)
15. 骨系 (頭蓋の骨)
16. 骨系 (頭蓋の骨)
17. 骨系 (頭蓋の骨)
18. 骨系 (頭蓋の骨)
19. まとめ
20. 筋系 (体幹の筋)
21. 筋系 (体幹の筋)
22. 筋系 (上肢の筋)
23. 筋系 (上肢の筋)
24. 筋系 (上肢の筋)
25. 筋系 (下肢の筋)

- 26. 筋系（下肢の筋）
- 27. 筋系（下肢の筋）
- 28. 筋系（下肢の筋）
- 29. 筋系（頭頸部の筋）
- 30. まとめ

#### 成績の評価

筆記試験(100%)で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要である。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理すること。

#### テキスト

「解剖学」東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）  
資料としてプリントを配付する。

#### 参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）  
「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

#### オフィスアワー

火曜日 9:00～12:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A195021
講義名	人体の構造 II
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

#### 目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義する。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とする。

#### 到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指す。また講義後も継続的に学修が出来ることを目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 受講ガイダンス
2. 内臓系 (消化器)
3. 内臓系 (消化器)
4. 内臓系 (消化器)
5. 内臓系 (消化器)
6. 内臓系 (消化器)
7. 内臓系 (消化器)
8. 内臓系 (呼吸器)
9. 内臓系 (呼吸器)
10. 内臓系 (泌尿器)
11. 内臓系 (泌尿器)
12. 内臓系 (生殖器)
13. 内臓系 (生殖器)
14. 内臓系 (内分泌)
15. 内臓系 (内分泌)
16. まとめ
17. 循環器系 (一般)
18. 循環器系 (動脈)
19. 循環器系 (動脈)
20. 循環器系 (動脈)
21. 循環器系 (静脈・リンパ)
22. 神経系 (中枢神経)
23. 神経系 (中枢神経)
24. 神経系 (中枢神経)
25. 神経系 (中枢神経)

- 26. 神経系（伝導路）
- 27. 神経系（末梢神経）
- 28. 神経系（末梢神経）
- 29. 感覚器系
- 30. 感覚器系

#### 成績の評価

筆記試験(100%)で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

解剖学は人体の構造に関する知識を学修する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要である。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理すること。

#### テキスト

「解剖学」東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）  
資料としてプリントを配付する。

#### 参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）  
「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

#### オフィスアワー

火曜日 9:00～12:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A198011
講義名	人体の構造実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

#### 目的

本科目は人体を構成する各器官系の形態と構造について系統解剖学の立場から学ぶことを目的とする。また、この科目は実習科目であるが、学習効果を高めるために前期に並行して開講される講義科目「人体の構造Ⅱ」の内容と相互に連携しながら、連続的に進行するように授業計画が立てられている。

#### 到達目標

受講生が人体の成り立ちや各器官系の形態や構造について解剖学に基づいて体系的に考察することができる力を身につけることを目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 医の倫理・神経系（総論）
2. 神経系（中枢神経）
3. 神経系（伝導路）
4. 神経系（末梢神）
5. 感覚器系
6. 循環器系（総論）
7. 循環器系（心臓）
8. 循環器系（動脈）
9. 循環器系（静脈他）
10. 内臓系一般
11. 呼吸器系
12. 消化器系
13. 泌尿器系
14. 生殖器系
15. 内分泌系

#### 成績の評価

実習時間中の課題評価(80%)、実習への取り組み度(20%)で総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

毎回の授業の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に予習（授業範囲の教科書ページの通読）と復習（講義ノートや配付プリントを利用した授業内容の反復）を行う習慣をつけること。

#### テキスト

「解剖学」東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付する。

参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

オフィスアワー

火曜日 9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟 4階 407 ・ tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A221011
講義名	生涯スポーツⅠ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

#### 担当教員

相澤 慎太

#### 目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

#### 到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 【合同授業】（五十嵐、相澤）  
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合し、選択種目を決定する。  
第2週から1班：軽スポーツ・運動ゲームコース、2班スポーツコースとに分かれて実践する。
- 体力測定の実践①(筋力、筋持久力、柔軟性など)
- 体力測定の実践②(筋力、筋持久力、柔軟性など)
- 体力測定の実践③（身体組成、形態の測定）
- 体力測定の評価
- 1班：運動ゲーム  
2班：バドミントンの実践①
- 1班：フライングディスク①  
2班：バドミントンの実践②
- 1班：フライングディスク②  
2班：バドミントンの実践③
- 1班：フライングディスク③  
2班：バドミントンの実践④
- 1班：フライングディスク④  
2班：卓球の実践①
- 1班：グラウンドゴルフ①  
2班：卓球の実践②
- 1班：グラウンドゴルフ②  
2班：卓球の実践③
- 1班：ミニバレー①  
2班：ソフトボールの実践①
- 1班：ミニバレー②  
2班：ソフトボールの実践②
- 1班：ミニバレー②  
2班：ソフトボールの実践③

※ 天候により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

#### 成績の評価

学習到達度50%・実習への取り組み度50%にて評価。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特に復習として、動きの再確認を行うこと。

## 履修上の注意

・「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須である。

## オフィスアワー

木曜日の12:30～13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室・igarashi@kansai.ac.jp（五十嵐）



講義コード	1A222011
講義名	生涯スポーツII
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

### 担当教員

相澤 慎太・渡辺 俊哉

### 目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

### 到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

### 授業計画表

### 授業計画

- |                                                                                                                 |                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 【合同授業】（五十嵐、相澤、渡辺）<br>ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決めるので、必ず出席すること。）<br>【補強運動・スポーツコース】（担当：五十嵐、相澤） | 【太極拳】                 |
| 2. 体操                                                                                                           | 2. 太極拳の基本             |
| 3. 補強運動の実践①（器具を使用しないトレーニング）                                                                                     | 3. 太極拳の基本             |
| 4. 補強運動の実践②（マシンを使用するトレーニング）                                                                                     | 4. 太極拳の基本             |
| 5. 補強運動の実践③（フリーウェイトを使用するトレーニング）                                                                                 | 5. 動作名：起 勢 （チーシー）     |
| 6. 補強運動の実践④（アジリティートレーニング）                                                                                       | 6. 動作名：野馬分鬃（イエマフエンゾン） |
| 7. 補強運動の実践⑤（サーキットトレーニング）                                                                                        | 7. 動作名：倒巻肱（ダオジェンゴン）   |
| 8. 補強運動の実践⑥（トレーニングプログラムの実践）                                                                                     | 8. 動作名：左攬雀尾（ズランチウイ）   |
| 9. 卓球の基礎 ラケットの選択とボール遊び                                                                                          | 9. 動作名：左攬雀尾（ズランチウイ）   |
| 10. フォアハンド、バックハンドで返球                                                                                            | 10. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチウイ） |
| 11. フォアハンド、バックハンドのツツキ                                                                                           | 11. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチウイ） |
| 12.                                                                                                             | 12.                   |

フォアハンド、バックハンドストローク  
ビエン)

13. いろいろなサーブ、スマッシュの説明  
ショウ)

14. ゲームの説明と実践  
シー)

15. 卓球の実技試験

動作名：単 鞭 (ダン)

13. 動作名：十字手 (シーズー)

14. 動作名：収 勢 (ショウ)

15. 総まとめ

#### 成績の評価

学習到達度50%・実習への取り組み度50%にて評価。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。特に復習では、動きの再確認を行うこと。

#### 履修上の注意

・「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目は必須である。

#### 参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」 (健康・体力づくり事業財団)

#### オフィスアワー

木曜日の12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室・igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1A226011
講義名	生命のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 弘	指定なし

### 目的

生命のしくみについては、最近、新聞紙上をにぎわす話題が多い。例えば、iPS細胞、ES細胞、ポストゲノム、遺伝子治療、組換え、DNA、形態形成、再生医療、生命倫理、環境倫理、バイオテクノロジーオートファジー等である。これらのことが、我々の生活にどうかかわってくるのか。特に医療系の道に進むものにとっては知らずにすまずことは出来ない。

生命のしくみ（生物学）は、基本的には生物の共通性と生物の多様性について学習することである。共通性は、分子（DNA、タンパク質）、細胞、個体、エネルギー、自己複製（生殖、発生、遺伝）等である。一方多様性は、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性等である。

以上の生物の共通性や生物の多様性の学習を通じて生物学的に探究する能力と態度を育てる。同時に生物学についての基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を修得する。さらに最新の生物学の成果や知見についても理解する能力を育成する。

### 到達目標

1. 科学と科学の方法について細胞学の歴史を通して理解する。
2. 生態学や環境問題、生物の進化についての理解を深める。
3. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜について理解する。
4. 酵素の働き、同化（光合成）、異化（呼吸）のしくみを理解する。
5. 細胞の増殖、動物の発生過程と形態形成のしくみを理解する。
6. 遺伝の法則とDNAの複製、形質発現の過程を理解する。
7. バイオテクノロジーとその利用について理解を深める。
8. 生体防御と免疫のしくみを理解する。
9. ヒトの感覚器と筋肉の収縮、ホルモン系、神経系について理解を深める。

### 授業計画表

#### 授業計画

1. 科学の方法と細胞学の歴史
2. 個体群の生態学、生態系
3. 環境問題
4. 生物の進化
5. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜
6. 酵素とその働き
7. 代謝（異化、同化）
8. 細胞の増殖（細胞分裂）
9. 発生と形態形成
10. 遺伝の法則とDNA、ゲノム、ポストゲノム等
11. DNAの複製と形質発現

12. バイオテクノロジーとその利用
13. 生体防御、抗原と抗体、体液性免疫、細胞性免疫
14. ヒトの感覚器、筋肉の収縮
15. ホルモン系、神経系

#### 成績の評価

レポート提出、授業態度等30%、定期（筆記）試験70%で評価する。

#### 自己学習

毎回授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

指定された座席に座ること。自分のノートを作ること。配布されたプリントは整理しておくこと。静穏な環境下で授業が進行するよう努力すること。授業中での飲食や携帯電話、居眠りなどは厳禁する。

#### テキスト

「スクエア最新図説生物」（第一学習社）

#### 参考資料

必要に応じてその都度紹介する。

#### オフィスアワー

講義日の10：00～10：30

#### 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	1A229011
講義名	生命の化学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸田 静男	指定なし

#### 目的

生体を構成する物質の構造および機能（はたらき）の基本を習得してもらう。そして、生体機能の関連性についても理解してもらう。

#### 到達目標

生命を構成する物質の構造と機能（はたらき）を理解し、医療人としての基礎としてほしい。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 人体の仕組み
2. タンパク質の構造
3. タンパク質のはたらき
4. 糖質の構造
5. 糖質のはたらき
6. 脂質の構造
7. 脂質のはたらき
8. 核酸の構造
9. 核酸のはたらき
10. 酵素の性質とはたらき
11. ビタミンの種類とはたらき
12. 水・無機質のはたらき
13. 栄養素の消化・吸収
14. 生体の恒常性を保つシステム
15. エネルギーの消費と供給

#### 成績の評価

定期試験で成績評価を行う。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「イラスト 生化学入門－栄養素の旅」（東京教学社）

#### 参考資料

本学図書館にこれに関する数多くの書籍があるので、大いに参考にしてほしい。

#### オフィスアワー

金曜日 (12 : 30-13 : 10)

研究室・授業用E-mail

管理棟 2 F208研究室・toda@kansai.ac.jp

講義コード	1A230011
講義名	生命倫理
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 宗平	指定なし

#### 担当教員

矢本希夫、池田裕明

#### 目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

#### 到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

#### オムニバス形式

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題  
 第二講 医療情報と個人情報保護  
 第三講 インフォームド・コンセントとその法理  
 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反  
 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題  
 (池田)
- 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療  
 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死  
 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死  
 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング  
 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療  
 (吉田)
- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別  
 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断  
 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術  
 第十四講 出生をめぐる倫理問題 (その4) —新生児医療

第十五講 出生をめぐる倫理問題（その） その他  
（矢本）

成績の評価

定期試験、3人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

問題提起に対してよく考え、質問には自分の考えを積極的に述べること。

テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

オフィスアワー

月曜日昼休み12：10～13：10（吉田）

研究室・授業用E-mail

管理棟2階学長室（吉田） ・ yoshida@kansai.ac.jp



講義コード	1A270011
講義名	東洋思想
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1213
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 水野 杏紀	指定なし

#### 目的

東洋医学の古典、『黄帝内経』を踏まえて、陰陽五行、相学、風水・養生、歴史・文化、故事成語などを中国のさまざまな文献にもとづいて解説する。これにより、東洋思想のもののみかたを考究する。

#### 到達目標

古来より、中国では道を志す者は必要な技能の熟達を目指すとともに、諸書などを通じて自らの哲学の形成を努めた。講義ではそうした哲学の基盤となる東洋思想を概説し、それらの理解を深めることを目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 授業全体の解説 東洋思想とは何か
2. 陰陽五行① 陰陽五行と四季の歳時（『黄帝内経』）
3. 陰陽五行② 陰陽五行と食材（『神農本草経』）
4. 陰陽五行③ 陰陽五行と食養生
5. 相学① 西洋・東洋の手相学
6. 相学② 東洋の人相学（宋の『神相全篇』）と伝統医学
7. 相学③ 風水が唱える長生きする住まい
8. 養生① 病いをかからない暮らしと養生
9. 養生② 四季の食養生（お茶など）
10. 養生③ 多彩な養生の紹介
11. 歴史・文化 東アジアの歴史と文化（漢字、書画など）
12. 故事成語① 諸子百家の時代背景とその思想
13. 故事成語② 儒家（孔子・孟子）と道家（老子・荘子）
14. 故事成語③ 項羽と劉邦、三国志の世界など
15. 全体のまとめ 『黄帝内経』と東洋思想

#### 成績の評価

レポート50%・小テスト30%・ミニレポート20%

#### 自己学習

配布プリントをもとに次回の予習事項を提示する。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 参考資料

参考資料などは授業内で適宜紹介する。

「易、風水、暦、養生、処世—東アジアの宇宙



講義コード	1A310011
講義名	物質と自然のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

#### 目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで物質と自然の法則を中心に学び、細かい事項を暗記するのではなくて、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない力を身に付ける。これは専門科目を学ぶ上で基礎となる。

#### 到達目標

この授業で使用するテキストは、高校で物理を学習しなかった場合でも、自然現象の見方を把握して定性的な理解ができるように書かれたもので、数式をほとんど使わずに説明するよう配慮されている。授業ではできるだけ身の回りの事象を題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合にその内容が理解できるような基礎力を身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

01. はじめに、狙い、進め方
02. 物理量と物理法則、単位
03. 力とその性質、万有引力と重力
04. 摩擦力と抵抗、力のつり合い、水圧・気圧
05. 速度と加速度
06. 運動の法則
07. 等速円運動、単振動、運動量と力積
08. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー
09. 熱と温度、内部エネルギー、熱力学の法則
10. 波の性質、音波、光波
11. 電荷、クーロンの法則、電流
12. 回路と起電力、オームの法則
13. 磁石と磁場、電流と磁場、電磁誘導
14. 原子の構造、波か粒子か
15. 原子核の崩壊と放射線、核エネルギー

#### 成績の評価

試験約67%・授業中のミニレポート約22%・授業への取り組み度約11%

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号・単位に注意すること。学習に

おいては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

#### テキスト

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）

#### 参考資料

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）

「物理学がわかる」（技術評論社）

#### オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認すること。

#### 研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1A378031
講義名	鍼灸基礎実習Ⅰ（鍼基礎）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-5001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

#### 担当教員

北川 洋志

#### 目的

この科目は、鍼灸師になるために必要な鍼施術の基礎知識を学び、刺鍼の基礎技術を修得する科目である。  
刺鍼操作の基礎である片手挿管法と旋撚直刺刺入の方法を習得する。

#### 到達目標

片手挿管50回以上（5分間）  
足三里 直刺 15mm刺鍼 30秒以内

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 鍼の基礎知識（講義）
2. 片手挿管法の基本練習
3. 鍼枕での旋撚刺法の練習
4. 実習室における諸注意
5. 鍼の有害事象（講義）
6. 各自の下腿の切皮練習
7. 各自の下腿の刺入練習
8. 相手の前腕部の切皮練習
9. 相手の下腿の刺入練習
10. 実技試験の説明
11. 実技試験の練習①
12. 実技試験の練習②
13. 実技試験①
14. 実技試験②
15. 実技再試験

#### 成績の評価

実技試験にて評価

#### 自己学習

授業1回（1コマ）につき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「はりきゅう理論」 (医道の日本社)  
その他、資料配布

参考資料

「はりきゅう実技〈基礎編〉」 (医道の日本社)  
「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 (医歯薬出版)

オフィスアワー

山崎 木曜日(12:00~13:00)

北川 木曜日(12:10~12:40)

研究室・授業用E-mail

山崎 診療・研究棟3F 311研究室 (yamazaki@kansai.ac.jp)

北川 診療・研究棟3F 鍼灸教員室 (kitagawa@kansai.ac.jp)

講義コード	1A379021
講義名	鍼灸基礎実習Ⅱ（灸基礎）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-5002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

#### 担当教員

北川 洋志

#### 目的

この科目は、鍼灸師になるために必要な灸施術の基礎知識を学び、施灸の基礎技術を修得する科目である。  
四肢の取穴法と施灸技術の基礎と八分灸・重ね灸の方法を習得する。

#### 到達目標

紙上施灸100壮以上（10分間）  
合谷 重ね灸3壮 45秒以内

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 灸の基礎知識（講義）
2. 紙上での施灸の基本練習
3. 灸の有害事象（講義）
4. 各自の下腿の八分灸練習
5. 相手の下腿の八分灸練習
6. 相手の前腕の八分灸練習
7. 相手の下腿の重ね灸練習
8. 相手の前腕の重ね灸練習①
9. 相手の前腕の重ね灸練習②
10. 実技試験の説明
11. 実技試験の練習
12. 実技試験①
13. 実技試験②
14. 実技再試験
15. 無痕灸の実習

#### 成績の評価

実技試験：80%  
その他（提出物等）：20% にて評価

#### 自己学習

授業1回につき1コマ（45分）相当の予習・復習・課題を行うこと。

#### テキスト

「はりきゅう理論」 (医道の日本社)  
その他、資料配布

参考資料

「はりきゅう実技〈基礎編〉」 (医道の日本社)  
「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 (医歯薬出版)

オフィスアワー

山崎 木曜日(12:00~13:00)

北川 木曜日(12:10~12:40)

研究室・授業用E-mail

山崎 診療・研究棟3F 311研究室 (yamazaki@kansai.ac.jp)

北川 診療・研究棟3F 鍼灸教員室 (kitagawa@kansai.ac.jp)



講義コード	1A397011
講義名	鍼灸理論Ⅰ（基礎）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-4102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

#### 目的

鍼灸治療は東洋医学の一つとして、長い歴史と伝統の中で発展してきた治療法であり、古代の中国思想である陰陽五行説に立脚した医療であるといえる。従来、鍼灸治療は、経験的で科学性に欠けるきらいがあった。鍼灸理論は、鍼灸治療の治療効果を、科学の目で観察し、そのメカニズムを論理的に考察する能力を養うことを目的とする授業科目である。したがって、講義内容は、鍼灸刺激が生体にどのように受容されるのか、また鍼灸刺激は生体の組織や器官にどのような影響を与えるのか、鍼灸治療の効果はどのようなメカニズムで出現するのかなどについて、現在知られている生理学や免疫学などの科学的知見に基づき考えることが中心となる。

#### 到達目標

鍼灸の治効理論を、科学的な側面から理解するための基礎知識を習得することを最低限の到達目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 1. 1. 鍼灸施術について(5) 灸の基礎知識
2. 1. (6) 灸術の種類
3. 1. (8) リスク管理①（灸）
4. 1. (1) 概論 (2) 鍼灸の基礎知識①
5. 1. (2) 鍼灸の基礎知識②
6. 1. (3) 刺鍼の方式と術式
7. 1. (4) 特殊鍼法①
8. 1. (4) 特殊鍼法②
9. 1. (7) 鍼灸の臨床応用
10. 1. (8) リスク管理①（鍼）
11. 1. (8) リスク管理②（安全・衛生）
12. 2. 鍼灸治効の基礎 (1) 痛み感覚の受容と伝導
13. 2. (2) 温度感覚の受容と伝達
14. 2. (3) 触圧感覚の受容と伝達
15. 2. (4) 筋の伸張刺激と振動の受容と伝導

#### 成績の評価

定期試験の成績によってのみ評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社）

参考資料

「鍼灸臨床最新科学」（医葉薬出版）

「図解鍼灸療法技術ガイドI」（文光堂）

「図解鍼灸臨床手技マニュアル」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日 12:00～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階414研究室・k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	1A416011
講義名	科学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

#### 担当教員

松本 弘

#### 目的

生物・物理・化学の各分野の基礎項目について十分な知識を持つことにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、科学思想および科学の方法について教授し、生物の共通性と多様性を学ぶ。物理・化学分野においては、高等学校で学ぶ重要項目の理解を深め専門分野の活動に関係する物理現象を系統的に理解する能力と物質とその変化を化学的に理解する能力を養う。したがって高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

#### 到達目標

1. 細胞学の歴史と科学の方法が理解できる。
2. 遺伝子および生殖・発生学の基礎が理解できる。
3. 専門科目の学習に必要な物理学の基礎が理解できる。
4. 専門科目の学習に必要な化学の基礎が理解できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 科学と科学の方法
2. 細胞学の歴史と細胞
3. 遺伝子DNAとその複製について
4. 遺伝子からの形質発現の調節
5. 生殖・発生学の基礎
6. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力など）
7. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメントなど）
8. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）
9. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎
10. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）
11. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン
12. 分子量、式量、物質質量、溶液の濃度
13. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH
14. 酸化と還元、身近な無機化合物
15. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）

#### 成績の評価

各分野とも、課題30%、定期試験70%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「スクエア最新図説生物」（第一学習社）

オフィスアワー

授業終了後

講義コード	1A417011
講義名	統計学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

#### 目的

統計学の基礎について理解できるように講義する。

受講生が統計学の基礎、特に記述統計学を学ぶことで、将来の推測統計学の学習に備えることを目的とする。

さらに、統計学に基づいた医学研究における研究デザインの理解を目的とする。

#### 到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指す。また講義後も継続して学修が出来ることを目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 統計学とは（総論，社会における統計学）
2. 統計学とは（医学における統計学）
3. 母集団と標本
4. データの種類
5. 記述統計学
6. 度数分布とヒストグラム
7. 最頻値・中央値・平均値
8. 分布
9. 分散と標準偏差①
10. 分散と標準偏差②
11. 仮説検定
12. 区間推定
13. 統計学に基づいた医学研究における研究デザイン
14. 研究論文から読み解く統計学
15. まとめ

#### 成績の評価

レポート等(80%)、授業内課題への取り組み度(20%)で総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

講義の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に学習する習慣をつけること。

#### テキスト

特に指定しない。

資料としてプリントを配布する。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日 9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A418011
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

#### 目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

#### 到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法
14. 労働と法
15. エピローグ

#### 成績の評価

成績評価は、定期試験とミニツツペーパーおよびレポート等。  
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

## 履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニッツペーパーを随時実施する。このミニッツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニッツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニッツペーパーは出席調査の意味ももっている。

## テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)

「現代法学入門」 (有斐閣)

「ポケット六法 (2018年)」 (有斐閣)

## 参考資料

講義において紹介する。



講義コード	1A421011
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

#### 担当教員

若山 育郎・王 財源・小河 健一・川本 正純・吉備 登・黒岩 共一・近藤 哲哉・山本 博司・伊藤 俊治・木村 研一・谷 万喜子・戸村 多郎・内田 靖之・中吉 隆之・鍋田 理恵・山口 由美子・山崎 寿也・池藤 仁美・  
北川 洋志・寺岡 祐助・百合 邦子

#### 目的

本科目では、大学を知ること、相手を知り、己を知り、学修とは、鍼灸とは、これをどのように活かしていくなどについて、高校までの主体であった「teaching」から、ワークショップを中心とした「learning」に移行し、大学での学びを理解する。また、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

#### 到達目標

答えのない課題について、グループ間での討論の中で、自分の意見を述べ、相手の意見を尊重し、またグループとして意見を集約し、皆の前で発表することができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 大学探訪
2. 相手を知り、己を知る
3. 社会人基礎力を磨く（キャリア支援事業）
4. PROGの実施
5. 大学での学び①
6. 大学の学び②
7. 3つのポリシー
8. ツールの活用
9. PROGの結果による振り返り
10. 鍼灸の歴史
11. 卒業後の将来
12. 1年生の科目
13. 医療と道德 [仮題] ①
14. 医療と道德 [仮題] ②
15. 医療と道德 [仮題] ③

#### 成績の評価

初回報告レポート10%・チーム基盤型学習 (team-based learning, TBL) 10%・関  
医learning10%・

ピア評価点30%・最終レポート40%

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

### テキスト

テキストは特に指定せず、資料を配付する。

### オフィスアワー

水曜日：12：00～13：00 (坂口)

金曜日：12：30～13：00 (池藤)

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

診療・研究棟3階教員室・ikefuji@kansai.ac.jp (池藤)

講義コード	1A540011
講義名	経穴学Ⅰ（経絡の流注）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2303
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

#### 目的

『黄帝内経素問』は、気府論篇で経穴について、「脈気発する処」と記載しており、経穴学の教科書では、経穴を「病気の反応点（または診断点）であり、鍼灸の治療点である」と定義している。鍼灸治療を行うには、このような経穴の性質や部位について習熟することが、必須の条件であるといえる。ここでは、経絡と経穴を理解させるため、①臓腑と経絡流注の概要、②正経十二経脈と奇経八脈について講義する。

#### 到達目標

督脈・任脈・手太陰肺経から足厥陰肝経までの経絡の流注を覚える。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 臓腑と経絡流注の概要、経穴の意義と取穴法の基本
2. 督脈の経穴
3. 任脈の経穴
4. 手太陰肺経と手陽明大腸経の経穴
6. 足陽明胃経の経穴①
7. 足陽明胃経の経穴②
8. 足太陰脾経と手少陰心経の経穴
9. 手太陽小腸経と足太陽膀胱経の経穴①
10. 足太陽膀胱経の経穴②
11. 足太陽膀胱経の経穴③
12. 足少陰腎経と手厥陰心包経の経穴
13. 手少陽三焦経と足少陽胆経の経穴①
14. 足少陽胆経の経穴②
15. 足厥陰肝経の経穴

#### 成績の評価

定期試験の成績（80％）に、中間試験、小テスト（20％）を加味して評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

#### テキスト

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

## 参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」(医道の日本社)

「臨床経穴図」(医道の日本社)

「定本経穴図鑑」(主婦の友社)

「WHO STANDARD ACUPUNCTURE POINT LOCATIONS IN THE WESTERN REGION」(World Health Organization)

「WHO/WPRO標準経穴部位－日本語公式版－」(医道の日本社)

## オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00 (事前にメールにて連絡をすること)

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 416研究室

e-mail;2c@kansai.ac.jp

講義コード	1A541011
講義名	経穴学Ⅱ（要穴Ⅰ）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

#### 目的

経穴学Ⅰでの学習に続いて、効果的な鍼灸施術を行うために重要な経穴について理解する。

#### 到達目標

骨度法、体表標示法、指量法といった取穴における総論的な事項を習得する。さらに、正経十二経脈の中から、6経（手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経）に所属する、①五行穴、②原穴・郄穴・絡穴について、および③背部兪穴と督脈について理解するとともに、人体で取穴できるようにする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 経穴学Ⅰの復習
2. 取穴の基本（骨度法、体表標示法、指量法）について
3. 要穴について（総論）①
4. 要穴について（総論）②
5. 手太陰肺経・手陽明大腸経の要穴について①
6. 手太陰肺経・手陽明大腸経の要穴について②
7. 足陽明胃経・足太陰脾経の要穴について①
8. 足陽明胃経・足太陰脾経の要穴について②
9. 手少陰心経・手太陽小腸経の要穴について①
10. 手少陰心経・手太陽小腸経の要穴について②
11. 督脈の経穴について①
12. 督脈の経穴について②
13. 背部兪穴について①
14. 背部兪穴について②
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.51コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。経穴学は、短期的な学修では身につかない。繰り返し勉強して覚える必要がある。

#### テキスト

『新版 経絡経穴概論』（医道の日本社）

#### 参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」(医道の日本社)  
「臨床経穴図」(医道の日本社)  
「定本経穴図鑑」(主婦の友社)  
「カラーアトラス 取穴法」(医歯薬出版)

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階416研究室  
tani@kansai.ac.jp

講義コード	1A546011
講義名	東洋医学総論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2301
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中吉 隆之	指定なし

#### 目的

中国伝統医学から発達した東洋医学について、歴史的な沿革、哲学思想、人体の構造と働き、病気の原因についての基礎を学ぶ。

#### 到達目標

陰陽五行学説の概要について、知識の無い人に説明する事ができる。  
 東洋医学における人体の構造と働きの概要について、知識の無い人に説明する事ができる。  
 東洋医学における病気の原因の概要について、知識の無い人に説明する事ができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 東洋医学とは
2. 東洋医学の沿革
3. 東洋医学の思想①
4. 東洋医学の思想②
5. 東洋医学の思想③
6. 気・血・津液・精・神①
7. 気・血・津液・精・神②
8. 蔵象論①
9. 蔵象論②
10. 蔵象論③
11. 蔵象論④
12. 経絡論①
13. 経絡論②
14. 病因論①
15. 病因論②

#### 成績の評価

授業中の課題レポートの内容（10%）、定期試験の結果（90%）に基づいて総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
 この授業では普段使い慣れない専門用語や現代科学とは異なる物の考え方が出きます。  
 そこで、授業中によく分からなかったことは、次回授業までに解決しておいて下さい。

#### テキスト

「新版 東洋医学概論」（医道の日本社）

## オフィスアワー

月曜日：16:20～17:00

水曜日、木曜日の12：30～13：00

記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応する。  
事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 414研究室

E-mail:nakayosi@kansai.ac.jp



講義コード	1A547011
講義名	東洋医学総論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中吉 隆之	指定なし

#### 目的

東洋医学総論Ⅰに引き続き、東洋医学における弁証（西洋医学の診断に相当する）、診察法、治療法の基礎を学ぶ。

#### 到達目標

東洋医学における病気の診察法である四診の概要について、知識の無い人に説明する事ができる。

東洋医学の病気の分析方法である八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証、経絡弁証などを用いて初歩的な弁証を行う事ができる。

東洋医学の理論に基づいた鍼灸治療の概要について、知識の無い人に説明することができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 東洋医学総論Ⅰの復習
2. 八綱弁証①
3. 八綱弁証②
4. 気血津液弁証①
5. 気血津液弁証②
6. 気血津液弁証③
7. 気血津液弁証④
8. 臓腑弁証①
9. 臓腑弁証②
10. 臓腑弁証③
11. 臓腑弁証④
12. 臓腑弁証⑤
13. 臓腑弁証⑥
14. 臓腑弁証⑦
15. 経絡弁証①
16. 経絡弁証②
17. 経絡弁証③
18. その他の弁証①
19. その他の弁証②
20. 四診（望診・聞診）
21. 四診（望診：舌診）
22. 四診（問診①）
23. 四診（問診②）

24. 四診（切診①）
25. 四診（切診②）
26. 四診（まとめ）
27. 論治①
28. 論治②
29. 論治③
30. 総まとめ

#### 成績の評価

授業中の課題レポート（10%）、定期試験の結果（90%）に基づいて総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
授業中によく分からなかったことは、次回授業までに解決しておいて下さい。

#### テキスト

『新版 東洋医学概論』（医道の日本社）

#### オフィスアワー

月曜日：16:20～17:00  
水曜日、木曜日の12:30～13:00  
記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応する。  
事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 414研究室  
E-mail:nakayosi@kansai.ac.jp

講義コード	1A555011
講義名	スポーツトレーニング論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2806
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

#### 目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータル的なコンディショニングを実施していく必要がある。体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防や対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チーム運営・管理など、多くのものが含まれる。本講義ではスポーツに求められる体力要素の知識を深め、指導上の基礎を学習することを目的とする。

#### 到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。  
 スポーツトレーニングの基礎を理解する上での用語を説明出来るようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. トレーニングとは何か？
2. 体力とは何か？
3. スポーツパフォーマンスと体力
4. トレーニングの原理・原則
5. トレーニング処方
6. ウォーミングアップとクーリングダウン
7. トレーニングの種類
8. 指導計画の立て方
9. 運動指導の科学
10. スポーツ活動と安全管理
11. 対象に合わせたスポーツ指導（中高齢者）
12. 対象に合わせたスポーツ指導（女性とスポーツ）
13. 対象に合わせたスポーツ指導（障害者とスポーツ）
14. 対象に合わせたスポーツ指導（発育発達期）
15. 指導するとは？

#### 成績の評価

- ・授業内レポート（10%）
- ・記述式定期試験（90%）

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
 聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。また、その単語を説明出来るように復習しておくこと。

## 履修上の注意

(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー、(財)健康・体力づくり事業財団認定健康運動実践指導者、JATIトレーニング指導者の資格試験受験の為に必要な科目である。

## テキスト

「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」(日本体育協会)

## 参考資料

「トレーニング指導者テキスト 理論編」(大修館書店)

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥」(日本体育協会)

「健康運動実践指導者 養成用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)

## オフィスアワー

木曜日 12:30~14:00

金曜日 13:00~15:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室

teraoka@kansai.ac.jp

講義コード	1A556011
講義名	スポーツトレーニング論II
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2807
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

#### 目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータルなコンディショニングを計画的に実践していくことが不可欠である。コンディショニングとは、競技力を高めるために必要なあらゆる要素を改善および調整していくことであり、体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防および対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チームの運営・管理など、非常に多くのものが含まれる。

本講義ではスポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高められるために行うトレーニング全般について学修する。

#### 到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。  
実際の現場で実践できる基礎理論を理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. スポーツバイオメカニクスの基礎 (相澤)
2. スポーツバイオメカニクス (スポーツ・トレーニング) (相澤)
3. トレーニング理論とその方法 (トレーニングの考え方) (相澤)
4. トレーニング理論とその方法 (筋力トレーニング①) (相澤)
5. トレーニング理論とその方法 (筋力トレーニング②) (相澤)
6. トレーニング理論とその方法 (スピードトレーニング) (相澤)
7. トレーニング理論とその方法 (持久力トレーニング) (相澤)
8. トレーニング理論とその実際 (トレーニング目標の設定) (相澤)
9. トレーニング理論とその実際 (トレーニングプログラムの設計①) (相澤)
10. トレーニング理論とその実際 (トレーニングプログラムの設計②) (相澤)
11. 体力テストとその活用 (相澤)
12. 体力テストとその活用 (相澤)
13. スキルの獲得と獲得過程① (相澤)
14. スキルの獲得と獲得過程② (相澤)
15. まとめ (相澤)

#### 成績の評価

小レポート50% 定期試験50%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は、健康運動実践指導者、日本体育協会公認アスレティックトレーナー、JATI認定トレーニング指導者の対応科目である。

#### テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(日本体育協会)

#### オフィスアワー

木曜日

12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp